

とびら第2課読み物

日本語のスピーチスタイル

- 1 皆さんはもう敬語は勉強しましたか。家族や友達と話す時に使うカジュアルスピーチ(くだけた話し方)も習いましたか。日本語には色々なスピーチスタイルがあることは知っていますね。実は、日本語は話す時も書く時も、スタイルがとても複雑で色々な決まりや習慣があります。この課ではそれについて勉強してみましょう。
- 5 1. スピーチレベル(丁寧さ)の使い分け
日本語はスピーチレベルがとても大切な言語なので、話す相手によって話し方を変えなければいけないことがあります。例えば、「さようなら」と「失礼します」や、「見せてね」と「見せていただけませんか」など、スピーチレベルの使い分けは日本語を勉強している人にとって最も難しいことの一つだと言われています。スピーチスタイルには、「とてもくだけた話し方」から「とても丁寧な話し方」まで色々なレベルがありますが、どの部分が違うのでしょうか。次の文を見て考えてみましょう。
- 10 ① あいつ、どこ、住んでる？ (男性が使うことが多い)
② あの人、どこに住んでるの？ (女性が使うことが多い)
③ あの方はどこに住んでいますか。
15 ④ あの方はどちらに住んでいらっしゃいますか。

皆さんは今までに何番の言い方を勉強しましたか。この四つを比べると、まず文末に使われている言葉の形で「くだけた話し方」か「丁寧な話し方」かが分かります。でも、違いは文末だけに表れるものではありません。「どこ」を「どちら」にすれば、もっと丁寧な言い方になります。「あの人」の代わりに「あの方」や「あいつ」と言うことも出来ます。そして、「どこに住ん

- 20 での？」と「い」を言わなかったり、「どこ、住んでるの？」と「に」を落として言ったりすると、もっとくだけた感じになります。自然な話し方で話せるようになるためには、多くの日本人と色々な場面^{場面}で話したり、日本の映画やドラマを見て、どんな場面で、どんな人が、どんな相手に、どんな話し方をしているかをよく観察するといいいでしょう。次のページの「色々なスピーチレベル」の表を見て、言い方を比べてみて下さい。

- 25 2. 男性と女性の話し方の違い
日本語の小説を読んでいると、話し方でそれが男性か女性かすぐに分かることがあります。特にくだけた話し方では、男女の話し方に違いが見られます。下の会話は、男女のどちらが話しているか、考えてみて下さい。

- A: 「あ～、お腹、すいたなあ」
30 B: 「俺も腹減った。この辺にうまいトンカツの店があるんだぜ。食いに行こうか。おごるよ」
A: 「いやよ、トンカツは。カロリーが高いから」
B: 「なんだ、じゃ、俺、一人で行こうっと」
A: 「あ、待って！ その店、おいしいんでしょ。やっぱり、私も行くわ！」
B: 「じゃ、今から行くぞ！」

- 35 どうですか。言葉の使い方が随分違いますね。文字では分かりませんが、イントネーションもとても違います。友達や恋人や家族と話す時、男性は自分のことを「僕」とか「俺」と言い、女性はたいてい「私」を使います。最近男女の差が小さくなって、上の例のように、文末に「わ」「わよ」を使う女性や「ぜ」「ぞ」を使う男性は少なくなっていますが、でも、女性が「俺も腹へった」と言ったり、男性が「いやよ！」と言ったら、びっくりされてしまいます。話し方の差
- 40 が小さくなくても、使わない方がいい表現もあると言うことを知っておいて下さい。

3. 文末の省略と言葉の短縮形

日本語のスピーチスタイルを考える時、文を最後まで言わないスタイルも知っておいた方がいいでしょう。日本人の会話には下の例のように、「～けど」や「～から」や「～し」などで文を終わらせる言い方が多くみられます。

- 45 「読み方が分からないんですけど…」(教えてくださいませんか)
「何回も電話をしたんですけど、連絡がないので…」(困っています)
「私も忙しいし…」(出来ません)

- これは言いにくいことをはっきり言わない言い方です。例えば、パーティーに誘われて断りたい時、「今週の土曜日は都合が悪くて、行けません」と言うより「今週の土曜日は、ちょっと…」のようにあまりはっきり言わない方が相手の気分を悪くしません。「…」の部分で、お願いや断りの意味を相手に分かってもらうのです。これは、相手の気持ちを大切にする日本人の考え方が日本語に表れている表現の一つですから、「…」が使えるようになると、会話が上手に聞こえます。また、話し言葉では、言葉を簡単に短くして言う言い方もよく使われます。例えば、次のような例です。
- 50

- 55 「ユネスコというのは、何ですか」 → 「ユネスコって、何ですか」
「忘れてしまった」 → 「忘れちゃった」 「飲んでしまう」 → 「飲んじゃう」
「買っておいだ」 → 「買ったいた」 「見せてあげる」 → 「見せたげる」

- 英語でも “I want to go.” が “I wanna go.” となったり、“Ask him.” が “Ask'im.” となったりしますね。こういう言い方は英語が出来ない外国人には慣れるまで大変です。同じように、日本語の短縮形も使えるようになるためには時間がかかるのです。
- 60

4. 文の倒置

日本語の会話では、文の倒置もよく見られます。

- 「ごめん、連絡なくて」
「今晚のパーティーには行けないんです。宿題があるので」
65 「かさ持っていないんだ。雨、降ってきたけど」

上の文では一番言いたいことを初めに言って、その後で理由や状況を説明しています。このような話し方も日本語の特徴の一つです。その形は2. 男性と女性の話し方の違いにも例が見られます。2. の会話文に戻って、どんな例があるか見てみましょう。

5. 書き言葉スタイル

- 70 話し言葉に色々なスタイルがあるように、書き言葉にも色々なスタイルがあります。日本語が上手になるためには、書く時にどんなスタイルを使ったらいいかも勉強する**必要があります**。
- 例えば、携帯電話を使って友達に短いメッセージを送る時には、その友達と話す時のようなくだけた表現を使うかもしれません。手紙を書く時は普通「です・ます体」、作文を書く時は「です・ます体」を使うことも「だ体」を使うこともあるでしょう。また、論文を書く場合には「だ体/である体」を使うことが多いです。書くスタイルは、何を書くか、誰が読むかによって使い分けなくてはいけないため、どのスタイルを選ぶかだけでなく、言葉の選び方も大切です。例えば、「だ体/である体」の論文では「すごく面白い」とか「とても面白い」ではなくて「大変興味深い」と書いた方がいいのです。それは「すごい」や「とても」より「大変」の方が、そして「面白い」より「興味深い」の方が書き言葉的だからです。書く時には書くスタイルに合った書き言葉的表現、そして、話す時には話すスタイルに合った話し言葉的表現があることを覚えておいて下さい。
- 80

Highlighted in yellow = 読み方・書き方を覚える漢字, **Highlighted in blue** = 読み方を覚える漢字,
Bold = 覚える単語, **Underlined red** = 小テスト(クイズ)に出る文法(ぶんぽう), **Just red** = 新しい文法